



虫送りは共同祈願の一つで、稲作の豊かな実りを妨げる害虫の駆除には、農耕に携わる人々の願いがこめられています。野田地区では、毎年7月31日に野田神社の氏子と野田地区の子ども会が中心となって檜の枝葉で神輿をつくり、地区内の全戸をまわって豊作を祈願した後に、野田堰に神輿を投げ入れています。農耕にかかわる行事や風俗が次第に失われつつあるなかで、古くからの伝承を忠実に実施している点で、貴重な行事です。

かつては坂戸市場でも7月31日に行われていました。子どもたちが麦わらを束ねたタイマツを持ち、行列の先頭は、提灯で、太鼓-タイマツの順に田のまわりを行列して歩きました。また、小櫃橋のたもとでは、大人が神楽を舞い、行事が終わると子どもたちにはごちそうがふるまわれていました。

奈良輪でも行われていましたが、大正時代の終わりごろにはすでになくなっていました。



ヒノキの神輿をつくる様子

